

熊等(イノシシ、カモシカ)出没時における学校の対応マニュアル

令和6年7月(令和7年5月改定) 岡谷市教育委員会

1. 熊等(イノシシ、カモシカ)出没時への対応について

(1) 児童生徒が熊等を発見・遭遇した場合の対応

児童生徒が登下校時や休日に熊等を目撃した場合は、刺激しないよう静かにその場から立ち去る。特に子熊等を目撃した場合は、近くに母熊等がいる可能性が高く、大変危険なため、走らず、静かにその場から立ち去る。

児童生徒や家庭等から学校に熊等の目撃情報等が寄せられた場合は、速やかに3. 連絡先の岡谷市農林水産課及び教育総務課に連絡する。

(2) 行政機関等から熊等の出没情報があった場合

行政機関等から熊等の出没情報が出された場合、学校長は、職員間で共有するとともに、自校の危険度等を踏まえた上で、必要に応じて校内放送や保護者への「すぐーる」による配信等を活用し、児童生徒や保護者に注意喚起を行う。

(3) 登下校時の安全確保

熊等の出没場所が学校や通学路に近い場合、学校長は、市教育委員会と相談の上、安全な登下校の方法を判断する。

危険度が高い場合は、保護者同伴による登下校や教職員同伴による集団登下校等により安全を確保し、児童生徒及び家庭等への伝達を行う。

2. 熊の出没への未然防止対策等について

(1) 未然防止対策

過去に熊の出没情報があった地域等で山に近づく校外活動等を行う場合は、熊よけの鈴などの音の出る物や撃退スプレーの携帯など、学校で準備を行う。

学校は熊の習性や遭遇時の対処方法の研修を行い、児童生徒に指導を行う。

学校付近で熊の目撃情報等があった場合は、朝夕の時間帯は熊が活発に行動する時間帯のため、学校から児童生徒に特に気をつけるよう注意を促す。

学校付近や通学路に近い場所で、熊の出没情報等があった時に備え、学校は児童生徒や保護者への伝達や、関係機関等への報告等の手順を確認する。

(2) 参考(熊の生態など)

東日本に生息する熊はツキノワグマ

体長は100cm～150cm(オスはメスよりも大きい)、体重は40kgから120kg

聴覚と嗅覚に優れ、運動能力が高い(時速40km以上で走ることもある)

春は山菜、夏は蜂蜜や昆虫、秋は木の実を捕食、6～7月が繁殖期、12～4月は冬眠大人の熊は30～70平方kmの行動圏を持ち、1日10キロ以上移動する例もある

3. 連絡先

岡谷警察署等、関係機関への連絡、現場確認、防災行政無線による放送、市公式ライン等への配信、看板設置等、住民への注意喚起の対応は市が行うため、速やかに岡谷市農林水産課及び教育総務課に連絡する。

学校単位の家庭への連絡は、校長が適宜判断の上、「すぐーる」にて配信を行う。

・岡谷市 23-4811(代表) 農林水産課 内線 1481～1484 教育総務課 内線 1213～1216

熊と遭遇しないためのポイント

朝夕の行動は避ける

熊は明け方と夕方の行動が活発なため、この時間帯は近くの山には入りません。登下校などで山に近い場所を歩くときは、できるだけひとりで行動せず、複数で行動します。

周囲の確認

熊の行動範囲はとても広いので、市内で熊の出没情報が出た場合は、近くに熊がいると思って行動します。

溪流での釣りや川遊び等の場合は、水の音で気配を感じずに接近してしまうことがあるので、周囲には十分気を付けます。

熊のいる場所に近づかない

山中は熊の生息地です。熊の足跡や糞などを見つけたら引き返します。

音の出るものを携帯する

人の気配を感じると熊は自ら避けていきます。熊に人の存在を知らせるため、山中や山の近くを歩くときは熊鈴や笛、ラジオなど、音の出る物を携帯するようにします。

子熊を見たら立ち去る

子熊の近くには必ず母熊がいます。母熊は本能で子グマを守るため、人や車など動く物を攻撃することがあります。小熊を見かけたら、静かに、そっと立ち去ります。

犬を連れて山に入らない

人の気配を感じた熊は、身を隠してやり過ごすことが多いですが、犬が一緒の場合は、犬に吠えられるなどして、驚いてしまうと攻撃することがあります。熊がいそうな山に犬を連れて入ることはやめましょう。